

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	先端社会研究所
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 現代社会における先端的な課題に学際的な観点から取り組むことを通じて、広く社会に貢献していく。	→社会状況に即応した先端的な研究テーマの設定と大学外の諸機関・組織との協同の実践状況。	B
2. 「ミッションステートメント」に適った関西学院大学独自の研究成果を公表する。	→研究成果に対する内部評価/外部評価の実施状況（運営委員会等での内部評価実施/関連研究者への外部評価の依頼）。	C
3. 現実社会から提示される課題や要請に対応しつつ、「共生/移動」、「景観/空間」、「セキュリティ/排除」を主たる切り口とした先端的な学術研究成果に裏打ちされた社会貢献を果たしていく。	→外部組織との協同のもとでの研究会、シンポジウム、Sキューブ事業の実施状況（年間2-3回の実施）	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

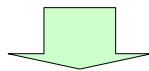
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目0.0.1	(理念・目的) 21世紀COEプログラム「『人類の幸福に資する社会調査』の研究—文化的多様性を尊重する社会の構築」で得られた成果を発展的に展開することを目的に、2008年4月に設立された先端社会研究所は、激変するグローバル時代の下での社会状況の分析と問題の解決を目指して、国際的な水準における研究拠点の形成に取り組む。また、従来からの理論概念や調査方法自体を再検討することを通して、これからの時代に求められる先端的な社会調査研究の可能性を、国内外の研究機関・組織との連携・協力を通して模索するとともに、共同研究の成果を広く社会に還元すべく、さまざまな民間・行政組織との関係構築を目指す。 (現状説明) 「他者問題」の解明を通じて学際的で先端的な研究拠点をめざす先端社会研究所の活動は、相補的な4つの領域—研究 (Research)、教育 (Education)、自発的な市民活動への支援 (Empowerment) 及びネットワークの構築 (Networking) から構成されている。																									
☆ 小項目0.0.2	(現状説明) 本研究所の研究成果については、以下の活動を通じて大学構成員への周知、及び社会への公表を行っている。 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th></th> <th>2008年度</th> <th>2009年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">教育活動</td> <td>セミナー</td> <td>1回</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>ゼミ</td> <td>12回</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">研究活動</td> <td>シンポジウム他</td> <td>3回</td> <td>4回</td> </tr> <tr> <td>研究会</td> <td>11回</td> <td>10回</td> </tr> <tr> <td>出版活動</td> <td>1件</td> <td>2件</td> </tr> <tr> <td>広報活動</td> <td>メールマガジン配信</td> <td>約500件</td> <td>約500件</td> </tr> </tbody> </table>			2008年度	2009年度	教育活動	セミナー	1回	1回	ゼミ	12回	—	研究活動	シンポジウム他	3回	4回	研究会	11回	10回	出版活動	1件	2件	広報活動	メールマガジン配信	約500件	約500件
		2008年度	2009年度																							
教育活動	セミナー	1回	1回																							
	ゼミ	12回	—																							
研究活動	シンポジウム他	3回	4回																							
	研究会	11回	10回																							
	出版活動	1件	2件																							
広報活動	メールマガジン配信	約500件	約500件																							
☆ 小項目0.0.3	(現状説明) 研究所に運営委員会を設置し、教育・研究活動計画が理念・目的に沿って設定されているかを検証するとともに、研究所の運営及び各種事業の企画・立案を行うためにリサーチコミッティを設置している。また、シンポジウムの公開や紀要等の発刊によって活動を公表することで、その適切性の検証の場としている。																									
☆ その他																										

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目0.0.1	
小項目0.0.2	
★ 小項目0.0.3	
その他	



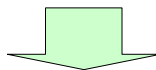
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目0.0.1	
小項目0.0.2	
★ 小項目0.0.3	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目0.0.1	
★ 小項目0.0.2	現実社会から提示される課題や要請に対応しつつ、「共生／移動」、「景観／空間」、「セキュリティ／排除」を主たる切り口とした先端的な学術研究成果に裏打ちされた社会貢献を目指しているが、具体的な活動については次年度より本格的に取り組むこととなる。
小項目0.0.3	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目0.0.1	
★ 小項目0.0.2	2010年度より、リサーチコミッティ及び運営委員会において3つのプロジェクトの指定研究及びプロジェクト代表者を決定し、また、各プロジェクトの指定研究を補完する研究を全学的に公募し（公募研究）、その実施を通して目標の達成を目指す。
小項目0.0.3	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他 (自由記述)	
-----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価推進委員会からの評価＞（実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室）

○せっかく時代の要請を受け取り、それに応えることによって社会に大きな貢献を為すことを目指して設立された研究所ですから、その成果は広く社会に向けて発信されなければなりません。成果の公表に向けての一層の努力が望まれます。
○小項目0.0.2の研究所の理念・目標の社会への公表に関しては、記述していただいている研究活動を通じた研究所の存在意義のアピールが中心であるものの、ホームページ等を通じた理念の明示等に関するところも重視されているところであるので、それらに関する取り組みの記述を追加されればどうかと思います。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ なし

Ⅴ. 本項目の評価指標

＜全学的な指標＞

0.0.0.S1	本学の育成した人材(卒業生)に対する社会(企業)の評価
0.0.0.S2	卒業生がどの程度スクールモットー(マスタリー・フォア・サービス)をどの意識しているか
0.0.0.S3	卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人の比率
0.0.0.S4	卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人で、「スクールモットーに共感できる」ことをその理由とする人の比率
0.0.0.S5	在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率
0.0.0.S6	本学出身でキリスト教関連活動に従事する者(牧師を含む)の数
0.0.0.S7	理念の周知について(1)－理念・教育目標を宣布する発行物・行事などの種類・数
0.0.0.S8	理念の周知について(2)－総合コース『関学』学』の履修者数

＜個別的な指標＞
